

トイレのひみつ

17.7.25

キャラクターと設定

主人公 友香（ゆか）...小学5年生。活発な、お姉さんタイプ。好奇心が旺盛。

正太（しょうた）...小学校5年生。おとなしめの少年。科学に興味を持っている。

手水（ちょうず）博士...トイレの研究に一生をささげる研究者

登場人物 ショウコ、イタル、ユキ、コウジ...友香たちのクラスメート、トイレについての発表をする

雪村先生...友香や正太たちの担任

設定 主人公は、地方都市（下水施設はある）に暮らすごく普通の小学生。家が隣どうしであり、幼稚園以来の幼なじみ。ふとしたことから手水博士と知り合い、トイレのひみつについて教えてもらう。

第1章 トイレがないと困っちゃう！

2学期が始まって間もないころ。ほかにはだれもいない静かな道。正太が歩いている（後ろ姿）。あせりつつ、そろりそろりと歩いている。

（ト書き）今井正太、小学校5年生。

正太「（自分に言い聞かせるように）もう少しだ....。うっ。」

その後ろから、友香が小走りに駆けてくる。

（ト書き）白井友香、小学校5年生。正太の幼なじみ。

友香、正太に気づく。正太の妙な歩き方を不審に思う。友香、正太に近づく。

友香「おっ、正太じゃん。どうしたの？」

友香、正太の肩をたたく。正太、びくっとする。

正太「.....」

友香「どうしたの、返事くらいしなさいよ。あれっ、顔、青いね」

正太「と、友香、さ、さわらないで。い、今、た、たいへんなんだから」

友香、正太をじろじろ見る。

友香「ははーん、わかった。わたしにはお見通しよ。トイレでしょ。しかも大きい方」

正太「そ、そう。学校じゃしにくいから、家でしようと思ってがまんしてたんだけど....。だんだんしたくなっちゃって」

そう言いながらも苦しそう。

友香「でも、まだけっこうあるよ、家まで」

正太「.....」

友香「そうだ。近道しよう。こっち。」

正太「でも、決まった通学路を通らなきゃ...」

友香「緊急事態なんだから、ね」

友香、正太の手を引っぱる。

正太「あ、だめ、強く引っぱっちゃ」

友香「ごめん。さあ、早く」

2人、小さな路地に入っていく。

数分後。2人、さらに細い道を歩いている。

友香「もう少しだからね」

正太「うん。でも、ほんとにこれ近道なの？」

友香「わたしを信じなさい！そこを曲がったら、うちの横に出るはずよ」

2人、路地を曲がる。

友香「あれ？」

正太「あれ？」

友香の思惑とちがいで、つきあたりに家があり、そこで行き止まりになっている。

友香「おかしいなあ」

正太、絶望的な顔になる。